

私たちは様々な感情や欲求を経験しながら生きています。これらを消すことはできませんし、消せたとしても、それでは人としての豊かさを失ってしまうでしょう。感情や欲求は私たちの活力でもあるわけです。しかし、それらがあまりに「子どもじみた」ものである場合、かえってつまづきの元にもなります。では、感情や欲求が、活力になるのか、つまづきになるのかの違いはなんでしょうか。

感情、欲求のあれこれ

では、私たちがしばしば経験する感情や欲求の例をいくつか見てみましょう。たとえば、「甘えたい」というのはどうでしょう。これは一見「子どもじみて」いますが、互いの甘えを受け入れ合うことができれば、愛情関係にも発展するでしょう。

逆に、「自立したい」という気持ちもあります。これは一見「おとな」なようですが、あまりに独りよがりの完璧主義だと、かえって周りに迷惑をかけます。

「人よりすぐれていることを示したい」というナルシストっぽい感情も、無視することはできません。実際、他人を蹴落とす「自己中」で終わればナルシストそのものです。しかし、ライバルと切磋琢磨するという取り組みができれば、より良いものを生み出す原動力ともなるものです。



自己防衛から創造性へ

このように見てくると、「子どもじみた」ものには自己防衛のにおいがします。「甘えたい」のは傷つきやすい自分を守りたいから、「完璧主義」は自分の失敗を認めたくないから、「ナルシスト」は理想の自分だけを見ていたいから、といったように…。

一方、「おとな」な感情や欲求は、創造性に開かれています。画期的なイノベーションの背後にライバルとの「切磋琢磨」があることはしばしばでしょう。「自立」とは自分の尻ぬぐいができることであり、それはみんなのリソースを誰かの尻ぬぐいではなく、創造的なことに振り向ける元です。互いを許し合う愛情関係からは、「安息の家庭」や「子ども」という創造的な営みが発展するでしょう。

自己防衛から創造性へ、というのがキーとなるようです。

